



# あすなろ通信

6月  
2021年  
6月号  
June



梅雨の季節となりました。

「雨の日には雨の中を。風の日には風の中を。」(相田みつを)  
晴れを期待しながらも、雨の音や景色を楽しみましょう。

## 活動の様子

外国語学習  
年間9回予定

美術活動  
年間6回予定



## 今月の行事

- 1日(火) 外国語活動
- 7日(月) カウンセリング
- 10日(木) プログラミング
- 16日(水) 理科学習
- 18日(金) 食育
- 21日(月) ヨガ
- 22日(火) 美術活動



※保護者懇談会、担任連絡会を実施します。  
新型コロナウイルスの感染防止に努めながら、  
活動を進めていきます。

【あすなろ菜園で野菜を育てています。】



まだまだ気は抜けません。密を避けて、みんなでマスク着用、換気、手洗い、消毒を心がけています。

## 【室長コラム】

あすなろ教室の子どもたち、「あすなろ」の意味を知っているでしょうか？辞書で調べてみると、「アスナロ(翌檜)は、ヒノキ科アスナロ属の常緑針葉樹。青森県では『ヒバ』、秋田県では『ツガルヒノキ』などとも呼ばれる」とあります。先日、NHKの朝ドラ「おかえりモネ」の中で、山主のサヤカさんが森にそびえる樹齢300年以上のヒバの木を見上げながら、主人公の百音に語っていました。「このヒバ(アスナロ)は、ヒノキにあこがれて『明日はヒノキになろう』と思って大きくなった。でも、どうがんばってもヒノキにはなれない。でも、ヒバは雨や風や雪に耐え、長い時間かけてゆっくり成長するから体がピシッとしてて緻密で狂いが少ない。虫にも湿気にも強い。ヒノキになれなかったとモジモジしてるけどものすごくいい木、あせらなくていい、ゆっくりでいいんだ」と。あすなろ教室の子どもたちにも、ぜひ伝えたいと思いました。

愛媛県の新型コロナウイルス陽性者数も、ようやく落ち着きを見せています。でも、まだまだ気を抜くことができません。そんな中、新聞に載っていた精神科医のコメントが目を引きました。「テレビやインターネットでは、大人たちが危機感をあおり、不安や愚痴、不満ばかりを訴えている。声を荒げて他者を批判ばかりしている。子どもたちは、メディアを通じてそういった情報にさらされ続けることが当たり前になりました。そんな日常が、子どもの心に影響を与えないわけがありません。心身に不調をきたす子が増えるのも当然です」というコメントです。なるほどなと思いました。子どもだけでなく、大人の心だってそうです。何を信じ、何に頼ったらいいのか、不安、不透明なことがたくさんあります。想定外のことが起こるのは日常茶飯事、変化が当たり前、今までどおりは通用しない。その上、世の中に不平不満、批判や誹謗中傷が渦巻いている。私たちの生きる土台はとても不安定です。

そんな不安定な環境の今だから、あせってはいけない、ゆっくりでいいんだと思います。不安定な地面の上を歩く時は、足で探りながら一步一步慎重に進みます。今はまさにその時、だからこそ、あすなろの若い木々をまっすぐに育てるために、私たち大人が、力を合わせて土壌を整えなければなりません。ひとりひとりが安心して育つことができる居場所を用意し、道を示すことができれば、きっと体がピシッとして緻密で狂いがなく、強くて堂々とした木に育ってくれると信じています。



「あすなろ教室」

TEL 0897-37-7474

FAX 0897-32-6822

e-mail asunaro@city.niihama.lg.jp

